

【絵本から学ぶ考え方】

絵本の中には考える力や問題の解決策のヒントになるものがあります。子ども達に読み聞かせをしていると、自分では気づかないようなことを教えてくれることがあります。今回は『おおきなかぶ』の絵本からいろいろな考え方を読み解いてみましょう。子ども達から大人気の絵本で、あらすじは…

❑ むかしむかし、おじいさんが、かぶのタネを植えました。

おじいさんはおおきく育ったかぶを抜こうとしますが、まったく抜けません。

そこに、いろんな人や動物がおじいさんに頼まれて手伝いにやってきます。

(おばあさん→孫娘→犬→猫→ネズミ)

みんなで力を合わせると、おみごと！ かぶが抜けた。というお話です。



どんなに小さな力でも必要になる時がある

おじいさん、おばあさん、孫娘、犬、猫の力では、どうにも抜くことができなかった大きなかぶ。最終的に加わったのはねずみでした。本来であれば小さなねずみの力など微力なもののように感じますが、『おおきなかぶ』においては重要な最後の一匹です。

このことから私達は「どんなに小さな力でも役に立つ」を学ぶことが出来るのではないのでしょうか？面白いエピソードがあります。

以前、職員から聞いた話ですが「読み終わったら『ねずみが一番力持ちだったんだねー』と言った子がいました」とのことです。

視点が変われば、感想も違いますね。

問題解決の鍵は、意外な方法かも

おおきなかぶ、を引き抜くために、猫が最後に連れてきたねずみ。

おじいさんもおばあさんも孫娘も、まさかねずみの力を借りるとは、当初から頭になかったでしょう。でも、何か問題を解決したい時には、これまで考えもしなかったような意外な方法を試してみるのもいいかもしれない、と絵本が教えてくれているようですね。

違う視点から見えていくと・・・

実は最初からおじいさんは、かぶを抜くという目的よりも、みんなで協力することが目的だったのではないのでしょうか・・・？

この絵本だけでなく、さまざまな絵本を読むことで『いろいろな視点で物事を考え、柔軟に対応して、現代社会に活かしていくことが大切なのではないか』と思います。

そんな事例が描かれていて、考えるきっかけになるのも、絵本の魅力ですね。 (本間)



おじいさんの足、かぶが抜けないように止めているようにも見えますね。